

インドネシアのエビ養殖施設起工

オリコンサルグローバル



オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCG）は、インドネシア・スラウエシ島ボレワリ村でバナメイエビ養殖施設の起工式を開いた。写真。同社と現地企業が共同出資したバナメイエビ養殖事

業会社「Akua Kultur Konawe Nusantara（AKN社）」が進める事業で、2027年5月の完工、7月からの出荷開始を目指す。養殖施設の総面積は33・9畝で、このうち養殖池面積は7・9畝。バナメイエビの年間生産規模は約1300トで、将来的には約4000ト規模に拡張する予定だ。

OCGは、世界各国での社会インフラ整備で培ってきた技術とプロジェクトマネジメントのノウハウを養殖事業にも生かす。水処理技術や施工監理技術を養殖施設の設計・施工・運営に活用する計画で、環境負荷の低減と生産性の向上を両立する養殖施設を実現する。さらに、水質やエビの生育状況を把握するデータ管理基盤、センサー、ドローンなどのデジタル技術に加え、日本からの遠隔モニタリングも活用することで、運営管理の高度化や品質の安定化、トレーサビリティの確保を図る。